

「動く箱物」それが道の駅

900番目の道の駅

「道の駅花盛り」はまだまだ継続中で、今や全国で936もの道の駅が登録されておりあります。(平成22年4月1日現在)

『うわじまきさいや広場』は平成21年4月26日にオープンしましたが、その時が全国でちょうど900番目でした。

四国では76駅、愛媛県では23駅となっており、道路整備の拡充とモーターゼーションや地産地消ブームにも乗り、利用されるお客さんの数が非常に多い公的施設になっております。

地域の拠点としての役割

きさいや広場は、「交流拠点施設」として人が交わり、集い、ここを核に周辺の観光名所や中心市街



目の前は宇和島港、すぐ後ろには1,000メートル級の山々がそびえます



ベロタクシーの拠点

な自然に育まれた和島には本当に豊かな水産物をはじめ、宇和島には本当に豊かな自然に育まれた

地、史跡などに誘導案内する機能を大きな役割としており、単なる産直販売施設ではないところが特長です。

道の駅としては珍しく市役所のすぐ近く、しかも港湾施設に立地し、みなとオアシスにも認定され、主要道路の結節地点という恵まれた環境にあり、開設1年でレジ通過客数が100万人、総売上が8億円という結果を見ております。

皆様からいただいた評価

真新しさもあるとは思いますが、旅行雑誌「じゃらん」6月号では「道の駅満足度ランキング」で四国第1位に輝くなど実際に来ていただいたお客

様から素晴らしい評価を受けていることに對して、とてもうれしく思っております。

きさいや広場の施設概要ですが、テナントとして、まずJAえひめ南の生産者団体による農産物等の産直施設が施設全体の売上の半分以上を占めており、毎朝新鮮な野菜や果物、加工品が出荷され多くのお客さんで賑わっております。またJAの女性部が米粉パンを施設

施設の構成

「逸品」がたくさんあり、全国を旅している人の話を聞いても「宇和島の食べ物が一番おいしい」という声をよく耳にします。

鯛めし、じゃこ天、みかん、真珠その他の加工品や宇和島城に代表される伊達文化の歴史も全国的に知名度と品格の高いものが多く、これらの組合せとバランスが皆様に満足していただいている大きな要因であると考えております。



宇和島市商工観光課 課長補佐兼商工係長
室津 浩二
(愛媛県宇和島市弁天町)



施設見取図

特集
道の駅

特産品売場



文化」の普及を図る目的で、市内の著名な郷土料理の店が協力し、「食のひろば」という共同体でそれぞれの店の特色を活かしたメニューを提供しております。

その他、施設の直営部門として市内の特産品販売コーナーの中で宇和島市と姉妹都市交流のある宮城県大崎市、長野県千曲市からも特産品を仕入販売しているほか、北海道当別町には生チョコレートで有名なロイズの工場があることから、施設内に常設のロイズの店舗を構えており、市内はもとより遠方から来られた女性客に大変喜ばれております。

内の工房で焼いており、モチリ感と独特の食感が大好評です。鮮魚関係では、市内の3店舗が別々の店舗を構え、店ごとに宇和海産の海の幸を豊富に取り揃えております。さらに、じゃこ天、かまぼこに代表される練製品の実演・直売店も2店舗あり、真珠のアコヤ貝の貝柱を使ったコロッケやかき揚げなども人気です。レストランは宇和島市の「食



産業まつりでの魚つかみ取り大会



マグロの解体ショー

また、ステージのある屋根付多目的広場は各種イベントや休憩場所として使われるほか、夏場にはジンギスカン料理のビアガーデンも開催いたしております。

向かいの研修棟には宇和島真珠や牛鬼の展示館、市民がとて安く利用できるギャラリーや研修室、調理実習室などもあるほか、店舗内の大型水槽では宇和島の養殖魚が鑑賞でき、さらには休憩施設として人気がある、津島やすらぎの里の「熱田温泉」を利用

今後の課題と展望

りました。足湯コーナーも設けております。

このように、道の駅としては盛りだくさんの施設構成



ロイズの常設コーナー



天然温泉を使った足湯での～んびり

ております。

平成23年度中には高速道路が西予市から宇和島市までつながります。なんとといっても道路の効果は絶大であり、松山から1時間程度で結ばれる時代の到来は千載一遇の好機ととらえ、受け皿となる宇和島圏域ではすでに愛媛県とともに記念イベントの開催に向けて準備を進めております。

そうなれば、松山市を含めた1時間の範囲の商圏人口は約100万人とされ、宇和島圏域の人口の割合からしても圧倒的に流入する数の方が増えるはずですが。

私は、道の駅は単なる箱物ではなく、「人」と「物」と「お金」が「動く箱物」という風にも考えております。まずは一度宇和島に来ていただき、「また来たい!」と思っていただけるような「宇和島ファン」を増やし、まちの「顔」として、地域が表情豊かにどんどんたくましくなっていく「実のなる木」のような道の駅にすることが、一番大切なことではないでしょうか。

ですが、今後の課題としてはさらに情報の発信機能を強化し、本来の観光情報センターとして皆様にご案内していただき、周辺施設との連携も地域全体の入込み客の増加に努めていく必要があると考え